

Title	プルーストとラスキン：鳥の表象をめぐる比較研究
Sub Title	Proust and Ruskin : comparative research on the representation of birds
Author	福田, 桃子(Fukuda, Momoko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は、2019年発表の論文「鳩からアルキオオネまで——マルセル・プルーストの作品における鳥」を出発点に、ラスキンとプルーストの関係を捉え直すものである。プルーストの作品における鳥の表象を論じる上でラスキンは重要な参照項であるにもかかわらず、これまであまり論じられることがなかった。ラスキンが典拠とするプルタルコスやミシュレ等の著述家における「鳥」「飛翔」「巣」などのイメージが、プルーストの想像力にどのように働きかけてきたかを検証し、先述の論考の続編を準備するための作業を行った。</p> <p>2019年度は、広く文学作品における「鳥」にまつわる調査の過程で、比較対象となりうる作家やテーマについて発表を行うことができた。まず、スイス出身の詩人であるフィリップ・ジャコテの詩の世界において鳥がどのようなイメージを担っているかについて発表を行った。そこで改めて明らかになったのは、彼岸と此岸を典型に、相容れない複数の領域を横断する鳥のイメージの豊饒な生産力である。それは当然、複数の作家の間も横断する力を具えているが、プルーストとラスキンの間で起きていることの特異性は、両者の間に異なる作家たちが介入することで、そうした横断が「引用」という営為を可視化し、その生産性を高めていることである。</p> <p>プルーストとラスキンの間のこうした「引用」の作用のさらなる実例として、12月には日本観光研究会のワークショップにおいて、プルーストとラスキンを繋ぐ都市であるヴェネツィアをめぐる発表を行うことができた。この都市もまた、海と陸を筆頭に、数々の二極性を軽やかに横断してみせる点で、女性と鳥、神話と現実といった異なる位相を横断するアルキオオネの巣（頑丈さと柔らかさを兼ね備え、海に浮かんでいる）と通底している。以上の研究成果を踏まえて、ラスキンによるそれらの「引用」、そしてプルーストによるその再「引用」を引き続き精査し、鳥のイメージの創造力を明らかにしていく。</p> <p>The purpose of this study is to redefine the link between Proust and Ruskin, based on my article "From the dove to the alcyon: the birds in the work of Marcel Proust." (2019). Although Ruskin is the most important reference for Proust, this link is far from being sufficiently explored.</p> <p>I worked on authors who were important to Ruskin such as Plutarque and Michelet, in order to specify how they worked on Proust's imagination.</p> <p>Researching on birds in literature enabled me to compare different authors. I gave a lecture on the representation of birds in Philippe Jaccottet's works. This research showed the imagery power of birds that crosses the different areas and authors.</p> <p>At the annual conference of JTR, I made a presentation on Venice, the city whose image is comparable with that of birds, and forms another link between Proust and Ruskin.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190204

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	経済学部	職名	准教授	補助額	200 (B) 千円
	氏名	福田 桃子	氏名 (英語)	Momoko Fukuda		
研究課題 (日本語)						
プルーストとラスキン—鳥の表象をめぐる比較研究						
研究課題 (英訳)						
Proust and Ruskin – comparative research on the representation of birds						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究は、2019年発表の論文「鳩からアルキュオネまで—マルセル・プルーストの作品における鳥」を出発点に、ラスキンとプルーストの関係を捉え直すものである。プルーストの作品における鳥の表象を論じる上でラスキンは重要な参照項であるにもかかわらず、これまであまり論じられることがなかった。ラスキンが典拠とするプルタルコスやミシュレ等の著述家における「鳥」「飛翔」「巢」などのイメージが、プルーストの想像力にどのように働きかけてきたかを検証し、先述の論考の続編を準備するための作業を行った。</p> <p>2019年度は、広く文学作品における「鳥」にまつわる調査の過程で、比較対象となりうる作家やテーマについて発表を行うことができた。まず、スイス出身の詩人であるフィリップ・ジャコテの詩の世界において鳥がどのようなイメージを担っているかについて発表を行った。そこで改めて明らかになったのは、彼岸と此岸を典型に、相容れない複数の領域を横断する鳥のイメージの豊饒な生産力である。それは当然、複数の作家の間も横断する力を具えているが、プルーストとラスキンの間で起きていることの特異性は、両者の間に異なる作家たちが介入することで、そうした横断が「引用」という営為を可視化し、その生産性を高めていることである。</p> <p>プルーストとラスキンの間のこうした「引用」の作用のさらなる実例として、12月には日本観光研究会のワークショップにおいて、プルーストとラスキンを繋ぐ都市であるヴェネツィアをめぐる発表を行うことができた。この都市もまた、海と陸を筆頭に、数々の二極性を軽やかに横断してみせる点で、女性と鳥、神話と現実といった異なる位相を横断するアルキュオネの巢（頑丈さと柔らかさを兼ね備え、海に浮かんでいる）と通底している。以上の研究成果を踏まえて、ラスキンによるそれらの「引用」、そしてプルーストによるその再「引用」を引き続き精査し、鳥のイメージの創造力を明らかにしていく。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The purpose of this study is to redefine the link between Proust and Ruskin, based on my article "From the dove to the alcyon: the birds in the work of Marcel Proust." (2019). Although Ruskin is the most important reference for Proust, this link is far from being sufficiently explored.</p> <p>I worked on authors who were important to Ruskin such as Plutarque and Michelet, in order to specify how they worked on Proust's imagination.</p> <p>Researching on birds in literature enabled me to compare different authors. I gave a lecture on the representation of birds in Philippe Jaccottet's works. This research showed the imagery power of birds that crosses the different areas and authors.</p> <p>At the annual conference of JITR, I made a presentation on Venice, the city whose image is comparable with that of birds, and forms another link between Proust and Ruskin.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
福田桃子	フィリップ・ジャコテの作品における鳥	スイス文学研究会(明治大学)	2019年6月22日			
福田桃子	フィリップ・ジャコテを読む	ふらんず(白水社)	2019年8月号			
福田桃子	文学者たちのヴェネツィア巡礼	日本観光研究会ワークショップ(名桜大学)	2019年12月15日			